2023
3

写真①参加者の作品

特別展「恐竜図鑑ー失われた世界の想像／創造」展関連 こどものイベント

「きみも恐竜アーティスト！」

■開催日時：2023年3月25日(土)
■参加者　：こども15名、大人13名
■対象　　：小学生～高校生と保護者
■場所　　：アトリエ2、企画展示室

■概　要
展覧会を鑑賞した後、さまざまな恐竜の骨のパーツを選び組み合わせて骨格をつくり、その骨に肉付けをしていくことで自分だけの恐竜を描きました。

■1 学芸員によるレクチャー
展覧会担当の岡本学芸員が、誰も見たことのない恐竜の姿が分かってきたのは、化石が発見されたからだとお話ししました。今回展示している作品は、化石発見当時から研究が進む現在に至るまで、その時々のアーティストが描いてきた恐竜の絵が展示されています。その研究による姿の変わり様を「イグアノドン」の作品を例にあげて紹介しました。また、それぞれの姿や特徴に注目して鑑賞してほしいと伝えました。

写真②レクチャーの様子

◇こどもの感想（※原文をそのまま紹介）
・ほねを組み合わせるのが楽しかったです。
(小学3年生)
・昔と今の恐竜のイメージがけっこう変わっていて面白いなと思いました。(中学2年生)

◇保護者の感想
・骨格から創造する恐竜を一生懸命描くことができ貴重な体験をさせて頂きました。
・子どもが集中してずっと取り組んでいて、楽しんで取り組んでいるのがわかりました。

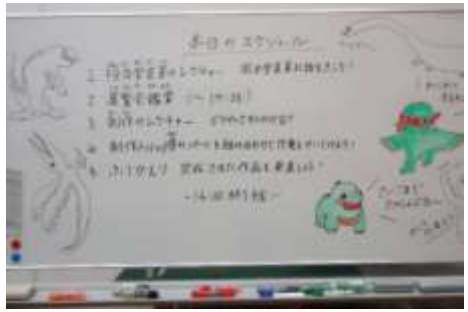
■2 鑑賞
展示室では各自のペースで30分ほど鑑賞しました。自分の知っている恐竜や岡本学芸員がレクチャーで紹介したイグアノドンの作品を見つけて、姿や特徴をじっくりと鑑賞していました。
展覧会の非公式キャラクターの「恐竜のようせい イグどん」(図①)が、展示室の中で参加者の鑑賞を見守っていました。さて、参加者のみんなはイグどんを見つけることができたでしょうか？

写真③　鑑賞している参加者の様子

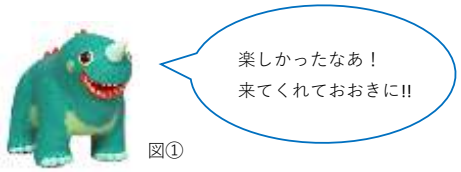
写真④ 色ぬりをしている参加者

■3 制作
今回は、展示室で見たイグアノドンのように、かつてこの地で生きていたであろう恐竜を想像して描いてもらいます。まずは、どんな姿をしていたのかイメージし、頭や足などの骨のパーツを選んで組み合わせていきます。骨格ができたら画用紙の上において、その骨を元に肉付けをしていきました。足の部分の肉付けが難しかった人が多かったようで、どう描こうか悩みながら描いている様子でした。その後、体の模様や色を色鉛筆やペンなどで着色していきました。さらに木や葉っぱなどの植物や仲間の恐竜などを描き込んで仕上げていきました。

■4 ふりかえり
完成した作品を投影しながら、その大きさや住んでいるところなど恐竜の特徴を発表してもらいました。
背景を青色でぬった中にいるのは雲の上に住む恐竜。めったにお目にかかれないレアな存在の、その名も「レアりゅう」(写真①-1)。全身うろこ状のものでおおわれた「よろいどん」(写真①-2)など、それぞれの想像力を働かせた特徴や名前をもった恐竜が次々とアトリエ2に現れました！目の大きさや形、口は大きくあけて吠えていたり、閉じていたりまた、恐竜の巣と卵を描いている人もいました。
「こどもを描いているというのも、生きものだということの表現につながっていてよかったと思います。」と、岡本学芸員が感想を伝えていました。



写真⑤当日のスケジュール



図①

□展覧会担当からのコメント
昔描かれていた恐竜の作品について解説をした後、展示室でじっくり鑑賞してもらえてよかったです。骨のパーツから想像し、それぞれ個性豊かに恐竜を描いてくれました。
(岡本学芸員)